



友の会通信

110
2020.12

Vol.24 No.3 通巻110号 2020年12月15日発行(年4回発行)

2020年を振り返って



博物館再開後、8月31日まで同館内の情報コーナー（2階ライブラリー入口）にて開催



4月24日から5月8日まで書面による総会決議を実施



障がい者福祉施設から博物館を見学する取組み



ソーシャルディスタンスを確保し、役員会を実施



対象人数を少なくし、感染予防対策を行い講座を実施

今年も残すところあと僅かとなりました。あっという間の1年でしたが、新型コロナウイルスの影響でこれまでとは全く違う年でもありました。1月に国内で感染者が発生、2月の横浜港でのクルーズ船から国内で最初の感染者死亡、4月には緊急事態宣言の発令により、様々な活動の大幅自粛が要請され、博物館や友の会の事業もほぼ自粛となりました。9月以降は、友の会でも新型コロナウイルス対策を考慮し、徐々にではありますが、講座を実施しています。今後も色々な対応を検討し、友の会活動を行う予定です。

目次

事務局より	2
情報クリップ	2
活動報告	3
行事案内	5

事務局より

2020年度友の会第2回役員会の開催

2020年9月19日（土）午後より、発送作業及び第2回友の会役員会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症防止のため、通常の会議室ではなく、講義室でソーシャルディスタンスを確保して行いました。役員会では、まず会員及び会計状況報告がありました。コロナによる講座中止の影響か、会員数は通年に比べ少ない状況が報告されました。また広報部からは活動報告がなく、通信が初の4ページとなったが、渡辺学芸員に急遽原稿を作成していただいた旨報告がありました。企画部からは今年度下半期の行事の確認がありました。よろずスタジオについて、コロナ対応のため参加者を少なくするなどやり方の見直しについて報告がありました。このように今年度はコロナ対応のため、講座の実施が大きく変わっています。講座担当者皆さん、やり方を工夫し、いかにこの状況の中で講座を実施し、博物館や自然を親しむ機会を作ろうと努力しています。



●友の会運営のお手伝いを募集！

友の会では運営のお手伝いをしていただける方を募集しています。資料の発送や会計事務、友の会通信の企画・作成、ブログ等での情報発信など、ご興味のある方はお気軽に事務局までご連絡ください。

（友の会事務局）

Tel:0465-21-1515 E-mail:kpmtomo@ybb.ne.jp

情報クリップ

友の会会員数：395名（11月1日現在）

正会員：394名／賛助会員：1名

企画展「かながわ発 きこの新種展」のご案内



開催期間：2021年2月20日（土）～
5月9日（日）

観覧料：無料（常設展は有料）

きのこをはじめとする菌類には、身近なところにも「未知種」がまだたくさん存在します。博物館にたくさん収蔵されている、このような名無しの菌類標本の中には、その後研究されることで、新種と判明するものもあります。

本企画展では、神奈川県産のものを中心に、近年新種として発表されたきのこの貴重な標本をまとめて展示します。さらに、きのこ標本を集め、新種の発表に至るまでの知られざる博物館活動の裏側もお見せします！

博物館からのお知らせ

博物館では現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、来館者の皆様への安全確保に努めるために各種の制限を設けております。皆様へはご不便をお掛けすることになりますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、最新の情報は、以下をご確認ください。

- ・ウェブサイト：<http://nh.kanagawa-museum.jp/>
- ・公式Twitter：@seimeinohoshiPR
- ・混雑情報Twitter：@seimeinohoshiCI

問合せ先：神奈川県立 生命の星・地球博物館

企画普及課 TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846

活動報告（よろずスタジオ）

◆「動物の歯とたべもの」

2020年10月18日（日）／博物館講義室／38名
（大人21名、子ども17名）／担当：大島学芸員

4月以来コロナウイルスの感染拡大で、いろいろな公共施設が閉じられ、何事も自粛を余儀なくされましたが、9月からは感染予防対策をして博物館も開けられ、行事も少しずつ再開されました。それを受け、長く中止していた友の会「よろずスタジオ」も実施に向けて準備をし、10月担当の大島学芸員の協力が得られたのを弾みに、18日に試行再開しました。

動物の歯と食べ物の関係を学ぶ内容に変わりはありませんが、密にならない実施方法を探り、

- ・学芸員さんの解説はPPTでスクリーンに映す
- ・標本観察も少人数の交代で観察する
- ・一回4家族、30分毎の入れ替え制
- ・入退出の際の手指消毒、机や椅子の消毒をする
- ・お客さんが多過ぎないように、よろずスタジオ開催案内の看板は出さず、各回5分前の館内放送のみの周知

などの工夫で試しました。

マスク着用は勿論ですが、来館の皆さんも全員がすでに着用してくださっており、混乱ありませんでした。標本に「触りたい!」という声もありましたが、今回は我慢して頂きました。

博物館管理課の了解も得られましたので、今後しばらくの実施はこの形で行うことになります。

計14家族の参加でしたが、落ち着いた雰囲気の中で体験して頂けたと思います。会場にはサイ、ウマ、ウシ（ボンゴ）、オオカミ、ブタなどの頭骨が展示されました。やはり頭骨の実物標本は訴えるものがあります。



どの歯がどれかな～

ウマの大きな下あごの歯と上あごの歯がピシッと重なると、「なるほど～」と納得の声が聞かれました。

コロナ禍がいつまで続くかわからないのでなおさら、自然を学ぶ機会を一回でもつぶさないことが、自然科学の扉を開ける効果につながると思いました。

今回の実施が原因で感染がおこらないことを願っています。（赤堀千里）



お父さんとワークシート完成

活動報告（植物観察会）

◆「岩戸山・草原の秋草を楽しむ」

2020年10月5日（月）／静岡県熱海市
16名／講師：田中徳久学芸員／担当：植物グループ

コロナ禍の中、植物グループの皆様が様々なご負担を厭わず観察会の実施を決断して下さいた事に感謝しつつ参加いたしました。

土沢別荘入り口から石仏の道を登ってゆく。シラヤマギク、イヌトウバナ、フユイチゴ、シュウブソウ、閉鎖花をつけたキッコウハグマが沢山。結実したコ克蘭、クロモジ、ヤマツツジ、コアジサイ、ノダケ、ニガイチゴ、カリマタガヤ、ガンクビソウ属3種等。

防火帯に出たところで赤い実を下げたツリバナがお出迎え。いよいよ草原の草花の別世界。ヤマハッカ、ツリガネニンジン、マルバハギ、ワレモコウ、サワヒヨドリ、ススキ、ヤマラッキョウの蕾。

観察会風景➡

コキンバイザサの花と実に歓声が上がる。アキノキリンソウ、メガルカヤ、アリノトウグサ、オトコヨモギ、フユノハナワラビ、ノコンギク、タムラソウ、コガンピ、カナビキソウ、アシタカマツ



ツリバナ果実





ムシソウ、オミナエシ、オガルカヤ、オオバヤシャブシ、ウリハダカエデ。

局所的にイズコゴメグサ、タチフウロ、ナン

コキンバイザサ バンギセル、センブリ、ウメバチソウ、幸運にもサクラガンピの花も観察できた。



イズコゴメグサ

下山の途中でスノキ、ツルリンドウ、ミツマタ、ウラジロ、フタリシズカ等を観察。

田中先生から草原の植物についての解説を頂いたり、秋の草花の

柔らかい色彩と虫の音に包まれて、とても幸せな観察会でした。

皆様、お世話になりました。 (中山真希子)

◆「身近な植物観察入門」

2020年10月24日(土)／博物館周辺／9名(スタッフ含む)／植物グループ

3回シリーズの植物観察入門講座で、第1回目の9月26日は、残念ながら雨のため参加者はなく、第2回目の観察会を実施した。場所は生命の星・地球博物館付近を探索し、身近な植物と接するのが目的で、今回は3名の参加があった。



カラスノゴマ

まず、博物館の植え込みに生えているヘクソカズラやメリケンカルカヤなどを見ながら、クスノキの葉にあるダニ部屋の話などしつつ、山神社社に向かう。ヘラシダやマメツタなど特徴ある覚え

やすいシダの話などをして、長興山紹太寺横の車道を進む。くさむらには、コミカンソウや黄色い花をつけたカラスノゴマが見られ、じっくりと写真を撮って楽しむ。長寿園への道に入ったところで、時間となり、もと来た道に戻り、入生田駅の近くで解散した。(植物グループ 山田隆彦)



アズマヤマアザミ



観察会風景

◆植物観察会「秋の深まりを感じて歩く」

2020年11月5日(木)／座間市県立座間谷戸山公園／18名(スタッフ含む)／田中学芸員

里山の雰囲気を残して整備された公園で植物の秋の様子を楽しみました。「里山」と「つる植物」について田中学芸員から説明を受けた後、青空をバックに赤く輝くアオハダの果実や冠毛でふわりと旅立つアカバナの種など「実りの秋」の様子や冬支度を始めた樹木の冬芽のかたちを観察し、テーマ「つる植物」では、茎でからまる、巻きひげでつかまる、吸盤や付着根ですいつくなどと工夫している様子を改めて確認しました。ま

た、「なら枯れ」に罹っているコナラなどが各所に見られたことから、その原因や被害状況、対策状況などについて田中学芸員から解説をいただきました。（松井宏明）



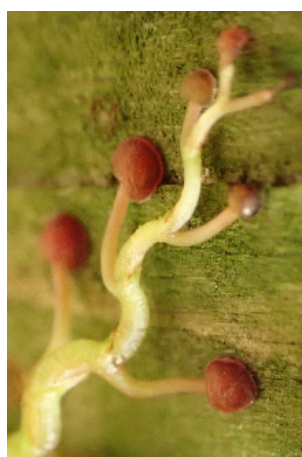
アオハダ 短枝の先の果実



アカバナ 種の旅立ち



ノササゲ 紫色の豆果



ツタの吸盤

行事案内

◆ 植物観察会『冬の樹木』

計画では横浜自然観察の森の予定でしたが、コロナ禍を考え、バスに乗らず交通の便の良い、「新治市民の森」に変更しました。

横浜市の貴重な緑地「新治市民の森」で、冬の樹木の姿を観察しましょう。ここでは樹木の枝や冬芽を手にとって見るができます。冬芽の観察はこの季節だけの楽しみです。

日 時：2021年1月23日（土）9：30～15：00

オープン（会員外も参加可） 雨天中止

場 所：横浜市緑区 新治市民の森

集 合：JR 横浜線十日市場駅改札口出て右手の広場
9：30

解 散：同駅 15：00 頃

講 師：田中学芸員

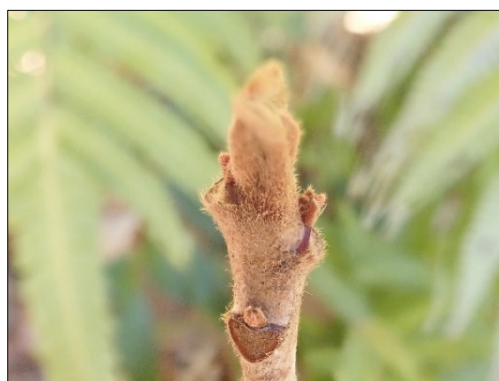
対 象：大人15名（応募者多数の場合抽選）

参加費：500円 会員外600円（保険・資料等）

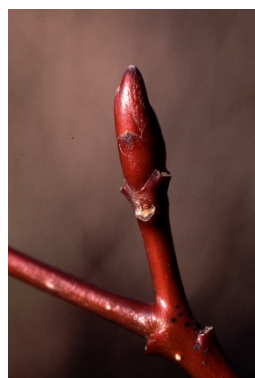
締切り：2021年1月5日（火）必着

連絡先：岩切 046-848-1798（18時以降）

*詳細は返信はがきにてお知らせします。



ぬくぬく、、、こんなに密でいいかしら？



ミズキ



タラノキ

◆ 地図を楽しもう！

自然観察に出て地図が読めればもっといろいろなことがわかるのに、という方はいらっしゃいませんか？この講座では地図に載っている様々な情報を知り、これを活用するためのコツを学びます。地図が少しでも理解でき身近なものになれば、情報満載の地図を持っての自然観察は楽しさ倍増です。読図の方法を学び、地図をもって歩いてみませんか。

日 時：2021年1月23日（土）10：00～15：30

場 所：博物館実習実験室・博物館周辺の屋外

講 師：新井田 秀一 当館学芸員

対 象：おとなの方(小学高学年以上同伴も可)

定 員：12名(定員を超えた場合は抽選)

参加費：会員 400 円(地形図代・資料代・保険料など)

非会員 600 円(同)

持ち物：筆記具、色鉛筆、昼食、申し込みはがき、
お持ちの方はコンパス(方位磁石)

注意事項：マスクの着用をお願いします。午後は屋外に出ますので、歩きやすい服装と防寒への対応をお願いいたします。

締切り：1月9日（土）必着

問合せ：関口 080 - 6508-9840

友の会行事 延期・中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、残念ですが以下の館内での行事は延期・中止とさせていただきます。何卒ご理解をお願いいたします。

● 地話懇話会：中止

「地学関連分野の話題を皆で気軽に話し合う」

…第4水曜日／開催月

2021年1月27日(水)

2021年3月25日(水)

● “よろずスタジオ”：中止

対 象：子ども（当日の来館者）

申込み：不要／オープン

参加費：無料

場 所：博物館1階講義室（東側）

「昆虫の体を調べてみよう！」

2021年2月21日(日)

● 第141回 サロン・ド・小田原：延期

2021年2月27日（土曜）に開催予定のサロン・ド・小田原（話題提供・折原貴道学芸員）は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、当面延期することになりました。このサロン・ド・小田原は2021年2月20日(土曜)～5月9日(日曜)の期間で開催される企画展「かながわ発 きのこの新種展」にあわせて予定されたものでしたが、やむなく延期とさせて頂きました。

折原学芸員によるサロン・ド・小田原が開催できるようにになりましたら生命の星・地球博物館のウェブサイトにてお知らせしますので、その時は、ご参加よろしくお願い致します。

● ミューズ・フェスタ 2021：中止

2021年3月13日(土曜)・14日(日曜)に開催予定でしたミューズ・フェスタ 2021は、書面開催された実行委員会において、全員一致で開催の中止が決定されました。たいへん残念ではありますが、ミューズ・フェスタ 2022に期待したいと思います。

ー広報部よりー

今回も、新型コロナウイルス感染症対策等により、友の会講座の実施が少ないことから、友の会通信の紙面も通常のものから縮小した内容となっています。

次号は、2021年3月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.24、No.3、通巻110号 2020.12.15 発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog：<http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>
Twitter：@kpmtomo